

「基礎研修⑤」が開催されました！

きらめき号外②

去る平成30年11月26日(月)、イオンホールにて基礎研修⑤が開催されました。「高齢者の精神疾患」をテーマに富松健太郎先生に講義して頂きました。富松先生の講義は熱く、面白く、分かりやすい内容であつという間に時間が過ぎてしまいました。

初めに世界の平均寿命について話をされ、2040年の予測では日本は85.7歳で2位だそうです。1位は僅差ですが、85.8歳のスペインという事でした。予測から見ても、医療の発達等で平均寿命は上がっているようです。



高齢者の精神疾患については、富松先生が体験されてきた様々な症例を紹介して頂きました。症例を通して富松先生が話されていたのは、病名に惑わされず、しっかり症状を見る事。病名がついた根拠をきちんと把握しておくこと、お薬を見直す事、ということ強く伝えられました。

また、精神科での治療となると、本人や家族の理解が困難なケースもあり、治療が出来なくなった例もあると話されました。お薬については、薬剤によっては認知機能低下を誘発しやすいものや、過鎮静になってしまっている場合もあるため、主治医と相談しながら内服の見直しをすることが大事という事でした。確かに多くの種類の薬を服用されている方はたくさんいらっしゃいます。市販薬やサプリメントなども服用されている事もあり、それらも含めて服薬内容を把握しておくことはとても大事だと思います。精神疾患といっても、薬で起こることもあれば、認知機能の低下やうつ傾向が引き金になる時もあり、症状と併せて、生活環境や食事・内服状況・既往歴などアセスメントを行い、情報を医師にしっかり伝える事が大切である事を改めて感じました。治療にはご本人やご家族の理解が必要となりますが、認知症外来だけでなく一般外来でさえも受診拒否される場合があり、理解を得る事の難しさを感じています。



私たちは日頃、ご本人やご家族とコミュニケーションをとりながらサービス調整を行っています。その中で得た情報をきちんと把握し、医師やサービス事業所、ご本人・ご家族としっかり共有しながら理解を深めていく事が大切なのだと再確認させて頂いた講義でした。